発行日　2011 年 12 月 15 日
発行責任者　認定 NPO法人スペシャルオリンピックス日本
〒105-0003 東京都港区西新橋 2-22-1
西新橋 2 丁目森ビル 7 階
TEL.03-6809-2034　FAX.03-3436-3666
http://www.son.or.jp

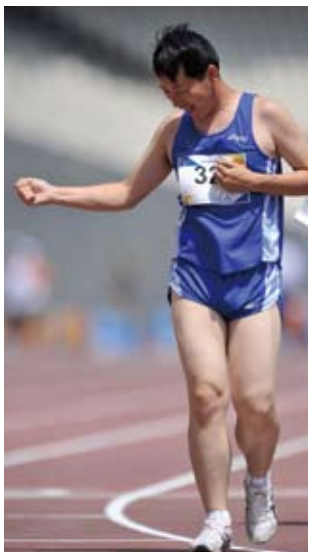
Special Olympics Nippon

vol. 25

Rainbow

認定NPO法人 スペシャルオリンピックス日本 NEWS

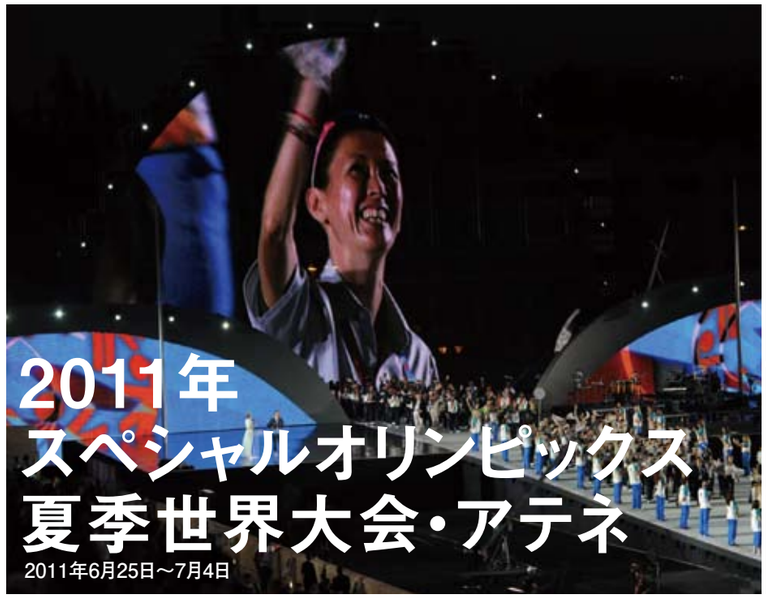
スペシャルオリンピックス（SO）とは　知的発達障害のある人たちに、日常的なスポーツトレーニングと成果の発表の場である競技会を年間を通じて提供し社会参加を応援する国際的なスポーツ組織です。



2011年 スペシャルオリンピックス 夏季世界大会

アテネ

日本選手団参加報告 2011.6.25～7.4



2011年 スペシャルオリンピックス 夏季世界大会・アテネ

2011年6月25日～7月4日

大会概要

大会名称	2011年スペシャルオリンピックス夏季世界大会・アテネ（日本語表記） Special Olympics World Summer Games Athens 2011（英語表記）
開催地	ギリシャ共和国 アテネ
開催期間	2011年6月25日～7月4日
参加者数	アスリート／170ヶ国・地域より6,261人 コーチ・役員 ／2,423人 ボランティア／約25,000人
日本選手団	団長／有森　裕子（スペシャルオリンピックス日本　理事長） アスリート／52人 コーチ・役員／23人
開・閉会式	Kallimarmaro Panathinaikon Stadium
実施競技	22公式競技を実施／日本選手団は下記9競技に参加 ● 水泳競技　● 陸上競技　● バドミントン ● ボウリング　● ゴルフ　● 体操競技 ● 卓球　● テニス　● バレーボール

競技別参加者数

競技名	参加国数	参加アスリート数	日本選手団アスリート数
水泳競技	118	680	6
陸上競技	165	1050	8
体操競技	36	164	4
テニス	33	150	4
卓球	72	252	4
バレーボール	18	268	12
バドミントン	42	154	4
ボウリング	49	289	8
ゴルフ	26	132	2

スペシャルオリンピックス日本 日本選手団 団長

有森裕子SON理事長

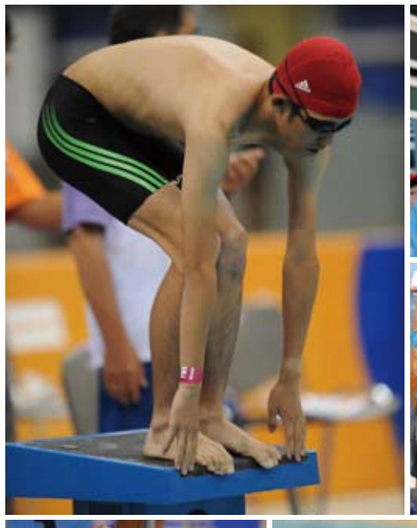
今回初めて日本選手団の団長として世界大会に参加し、アスリートの競技に向かう姿や真剣な表情をより近くで感じることができ、この活動の大切さを認識しました。それと同時に日常プログラムの中でのコーチングやコーチ育成に取り組むことによって、スペシャルオリンピックスがよりスポーツ組織になるために必要なものをひとつひとつ見出していきたい、と感じました。

そしてアスリート達が競技に対してもつ夢や目標をひとつでも叶えることができる組織でありたい、これからも人に「記録と記憶」を残し、関わる全ての人が元気になる活動でありたいと思います。

最後に、3月 11日に起こった東日本大震災の影響で日本が大変な時に、このようなチャンスを実現するために多くの皆様からご声援そしてご支援いただけましたことに心より感謝しております。本当にありがとうございました。

水泳競技

会場：Olympic Aquatics Center
(OAKA-Athens Olympic Sport Complex)
参加国：118
参加人数：680
日本選手団参加人数：6



参加アスリート感想

井上 陽介（SON・山形）

3週間の長い大会と思っていましたが、どれをとっても初めての体験ばかりで楽しく過ごすことができ、タイムも10秒縮めることができました。メダルはもらうことはできなかったのですが、毎日楽しく過ごすことができました。チームの皆やコーチと仲良くなれて良かったです。

水泳競技総括

槌谷 直子 ヘッドコーチ

水泳チームの大会期間中の目標は「精一杯泳ぐこと!」「チーム皆で応援し合うこと!」「表彰式を皆で讃え合うこと!」この3つを夕食後のチームミーティングで常に確認し合いました。その中で素敵な応援歌も生まれました。一人ひとりが大舞台で泳ぐことを楽しみ、表彰式に胸を躍らせることはもちろん、アスリート同士互いに名前を呼び合い、時に注意し、励まし、讃え、チームの仲間として、強い結びつきができていたと思います。

陸上競技

会場：Olympic Stadium
(OAKA-Athens Olympic Sport Complex)
参加国：165
参加人数：1050
日本選手団参加人数：8

参加アスリート感想
今村 彰彦（SON･福井設立準備）

アテネに行けると決まったときは、とても嬉しかったです。世界大会には、800m、1,500mと4×100mリレーに出て自分の力を精一杯出すことができました。自己ベスト更新にはならなかったものの近いタイムを出せました。

リレーでは、チームを結成した時と比べ速くなり、世界大会の決勝で「59秒01上いうタイムを出せました。また、800mでは銅メダルを取り嬉しかったですが、上には上がいるので、アテネから帰ってもライバルに負けないように、次の目標に向かって一生懸命練習します。世界大会では、親と離れ「自立」ということを学び、また、ここでしかできない貴重な体験を学べました。これからの人生の始まりの一歩にもなり一生忘れられない宝物になりました。

陸上競技総括
根津 良伸 ヘッドコーチ

オリンピック発祥の地アテネで、世界を舞台に挑戦する陸上競技のアスリート達は頼もしい限りでした。私が思い描いた以上の立派な成績を残してくれました。

印象に残るのは、日本出発前の合宿で、走り幅跳の踏切を合わせられないアスリートに付きっきりで、通路等を利用し、白いテーピングを踏み切り版に見立て何回も練習を行ったこと。このまま失格で記録なしではと私も必死でした。予選、決勝では、私の指示に気を配りながら試合に臨んでいる姿を見て、成績を残せると確信しました。本番では歩幅を合わせることができ、なんと決勝では記録が伸び、銀メダルを取得してくれました。私は嬉しくて思わず表彰式後、無意識に彼に抱きついていました。

帰国後「多動で眼差しも合わなかったわが子が、アテネの地を力強く踏みしめ走る姿に震える程の感動を覚えました」とファミリーから礼状が届きました。コーチを引き受け、役に立てているのだと気づかされる嬉しい内容でした。

自分の力を出し切り、表彰台で得意げにパフォーマンスをみせるアスリート達の姿から感動し、逆に勇気をもらい、私の支えになっているのも事実です。

体操競技

会場：Olympic Indoor Hall
(HELC- Helliniko Olympic Complex)
参加国：36
参加人数：164
日本選手団参加人数：4

参加アスリート感想
榎戸 美貴（SON･東京）

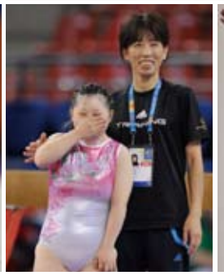
ブラボー! アテネ!!

体操の種目ごとに演技を終えると「ブラボー!ミキ!!」と大きな声援をいただいてとても感激しました。SOスタッフ、ボランティア、そしてコーチの皆さんありがとうございました。これから、また新たな目標に向かって SOで頑張り続けます!

何もかも「ブラボー! アテネ!!」でした!

体操競技総括
米永 富美子 ヘッドコーチ

アテネ入りした日に見た試合会場（ヘレニコ体操競技場）は、2004年のアテネ五輪の会場で、器具もそのまま使用されていました。綺麗なブルーのカーペットの上にボジュームされた器具がセッティングされてあり、アスリート達の驚きと胸の高鳴りは隠せませんでした。オリンピック発祥の地・アテネで華やかな演技が進行し、床運動や平均台・跳馬・平行棒・鉄棒・あん馬などアスリート達が見せる最高の演技は、各国の言葉で称賛されていました。器具と向き合いコールを待つアスリート達の緊張し締まったいい顔は今も目に浮かびます。器具に触れ演技が始まると『私を (僕を)見てよ!』とばかりに観客を引き付ける力もさることながら、緊張から解き放たれる瞬間の着地とともにこぼれる笑顔やガッポーズは最高でした。ミスはその後の演技で、その次の種目で、と一生懸命に演技するアスリートの姿に『最後まで諦めない強さ』を感じましたし、国内合宿から頑張ってきた何よりの成長だと思います。また、世界中のアスリートとコーチが集うこの世界大会では、各国の基礎トレーニングなどを教え合うなど、競技だけでなく多方面で成長できました。



テニス

会場：Olympic Tennis Center
(OAKA- Athens Olympic Sport Complex)
参加国：33
参加人数：150
日本選手団参加人数：4

参加アスリート感想
森田 一利（SON･神奈川）

① 僕はスペシャルオリンピックスに入って、初めて世界大会に参加しました。一番印象に残ったことは、日本とアテネの時差と暑さの違いです。

② 世界大会の初戦で、ドイツと戦いましたが、ストレート負けをしました。

③ シングルス準決勝でアメリカと戦い、アメリカにリードをゆるすものの、2ゲーム目でリードを取り返し、タイブレイクまで持ち込み、勝利しました。

④ ダブルスの表彰式が終わった後、アクアポリスに行って頂上まで上りました。そこから見る景色はとても奇麗だった。

⑤ 4年後の世界大会にぜひ参加をし、今度こそ金メダルを取りたいと思います。

テニス総括
田代 知博 ヘッドコーチ

オリエンテーションで初めてアスリート達に会った時、みんな緊張しておりましたが、その緊張の中にも世界大会でテニスをしたいという希望に満ちた顔を見て、私はアスリート達がアテネ（オアカ）のセンターコートで楽しんでプレーしている姿を想像しました。合宿では練習やミーティングなどを通して、お互いを知り、チーム一丸となって大会に臨みました。大会ではみんなが勝った喜び、負けた悔しさを体験。自信をつけながらゲームを楽しんでおりました。表彰台でのアスリート達の笑顔は印象的で、メダルをコーチ達に掛けてくれた時の嬉しさは、今でも忘れられません。

アスリート達にとって、世界大会への参加が決まってから大会が終わるまで、あるいはその後も、いろんなことにチャレンジする勇気・自信に繋がる、とても貴重なものだと感じました。

世界大会参加にあたって多くの方々のご支援に感謝いたします。

卓球

会場：Sports Training Halls 2
(SEFP- Peace & Friendship Stadium Pireaus)
参加国：72
参加人数：252
日本選手団参加人数：4

参加アスリート感想
薄井 えりか（SON･栃木）

私は初めて世界大会に参加しました。すべての種目（シングルス、ダブルス、ミックスダブルス）において金メダル取った事が凄く嬉しかったです。そして世界中の SOの仲間と交流できてとても楽しかったです。

私は大会期間中に誕生日を迎え、日本選手団のみんな、そしてマカオなど他国の選手団が一緒に祝福してくれました。私はこの世界大会に参加してスペシャルオリンピックスに国境は無いと思いました。最後に卓球の仲間達、コーチはもちろん選手団の皆さんありがとうございました。そして応援してくれた人達に心から感謝を申しあげます。ありがとうございました。

卓球総括
林　慎二 ヘッドコーチ

各国のプレースタイルは様々で、アジア系の緻密でテクニカルなスタイル、ヨーロッパ系のテニスのような大きなラリーを楽しむ（まさしくテーブルテニス）スタイルなど、競技レベルもゲーム内容も様々です。

その中で日本のアスリートは様々な国の文化に臆することなく、日頃の力を存分に発揮してくれました。そんなアスリートもプレッシャーを感じていたのでしょうか、試合が終わった後の緊張から解放された時の顔は今でも忘れることができません。

この大会を経験して一回りも二回りも成長したアスリートを誇らしく思い、また私にとってもアスリートからたくさんの“気づき”を与えてもらい、貴重な経験となりました。

世界大会という華やかな舞台に同行しましたが、世界中どこにいようと変わらないアスリートを支える人たちの絆、沢山のスペシャルの仲間たちと同じ想いを共有することができ、嬉しく思います。そして、アスリートを育ててきたファミリーや地区のコーチの皆さんに感謝したいと思います。

バレーボール

会場：Olympic Stadium Sports Hall
(OAKA- Athens Olympic Sport Complex)
参加国： 18
参加人数：268
日本選手団参加人数：12

参加アスリート感想
東　洋子（SON･熊本）

今回、世界大会に参加して本当にたくさんのことを学ぶことができました。メダルを取ることはできなかったけれど、チームワークの大切さを改めて感じました。小さな頃からバレーボールをしていましたが、チームみんなで一つのボールを繋ぐことの難しさ、声を掛け合う大切さ、そして何よりコートの中でどれだけ冷静に戦えるかなど、世界大会で学んだバレーボールの難しさをもう一度見つめ直して、4年後の世界大会を目標に、これからの練習を頑張ります。

世界大会に一緒に参加した日本選手団のみなさん、アスリート、コーチ、スタッフのみなさん、本当におつかれさまでした。そして、バレーボールのみんな♥本当にありがとう。これからも一緒に頑張ろうね!

バレーボール総括
城　裕幸 ヘッドコーチ

今回のバレーボールチームは熊本、京都、宮城のアスリート12人、コーチ3人で構成され、一丸となってチャレンジした大会でした。

体格では他国に比べると明らかに小さな日本のアスリートたちでしたが、全員がどこにも負けない大きな勇気をもってチャレンジしていました。感動する場面は数多くありましたが、一番の感動はやはりアスリート一人ひとりの最後まであきらめない姿勢です。今回、バレーボールチームは厳しいゲームが続きましたが、試合を終えて選手村に戻ってからもアスリート達は自主的に練習や話し合いを繰り返し、それぞれの目標を達成するために最大限の努力をしていました。全員が目標を忘れることなく、最後まで精一杯プレーし続けるアスリートの姿を見て、自然と涙していました。

世界大会でのアスリート達の努力は、とても素晴らしい経験であり、私たちコーチにとってもアスリートの頑張り、成長を間近に見ることができたことは最高の体験です。今後も、そんなアスリートのひたむきに頑張る姿を多くの人に見ていただき、障害を持つ人への理解が進んでいくことを望んでいます。

バドミントン

会場：Fencing Hall 1
(HELC- Helliniko Olympic Complex)
参加国：42　　参加人数：154
日本選手団参加人数：4

参加アスリート感想
中村 英樹（SON･長崎）

世界のレベルは、非常に高く驚きました。シングルスとミックスダブルスでは 4位と悔しい結果（残念）でしたが、男子ダブルスでは優勝できたのでとても嬉しかったです。これからも、もっと練習をして今よりも、もっと上手くなりたいと思います。頑張ります。

バドミントン総括
工藤 陽介 ヘッドコーチ

バドミントンでは、シングルス、ダブルス、ミックスダブルスのどの種目どの試合にも全てに感動がありました。

日本での合宿やギリシャでの事前練習ではあまり見ることのできなかったジャンピングスマッシュを大舞台で何度も決めて、たくましい姿を見せてくれたアスリート。長いラリーになっても、スマッシュやドライブを打ち続けて、相手チームに気持ちで負けることがなかったアスリート。一番上のディビジョンに入り全員がかなり格上の相手だったにもかかわらず、「胸を借りるつもりで頑張ります!」といって挑戦する気持ちを忘れなかったアスリート。そして、ミックスダブルスで男子アスリートの強烈なスマッシュを怖がることなく必死で相手コートにリターンするアスリート。ギリシャで共に過ごした 3週間、アスリートは日々成長していました。

バドミントンの“Team Japan”は、試合に敗れた悔しさも味わいましたが、世界大会という大きな舞台で、日頃の練習の成果以上のことが発揮できました。

ボウリング

会場：Spata Blanos Sports Park
参加国：49
参加人数：289
日本選手団参加人数：8

参加アスリート感想
長久 慎吾（SON･富山）

SOでは7年前からボウリングを始めましたが、自分が世界大会に出るなんて夢だと思っていました。でも、その夢が叶い世界大会・アテネに行くことができたことは本当に嬉しかったです。今大会の一番の思い出は、もちろんダブルスで金メダルを取ったことです。大会中はダブルスのペアの入江クンと何をするのも一緒で本当に仲良く過ごしました。だから2人で励ましあって試合に臨み、ダブルスで金メダルを取ることができました。またいつか2人でダブルスを組み世界大会に出ようと約束しました。本当に素晴らし経験ができました。ありがとうございました。

ボウリング総括
ソーントーン･フランク･リー ヘッドコーチ

アテネでは毎日新しい体験や感動をさせていただきました。例えば、私が担当しているボウリングのアスリートが開会式直前、熱を出してダウン。慣れない異国の地で緊張や疲労が出たのでしょう。開会式は他のコーチにお任せして私と2人で救急車に乗って病院に搬送。アスリートは3日間の入院となりました。 同じ時、病院ではイギリスチームが食中毒を起こし ERは満員状態でした。そこへ地元の患者さん数人が自分たちの治療がしてもらえないことに文句を言いだしガードマンと喧嘩に。そんな険悪な中、熱を出したアスリートが待合室で大好きな折り紙で静かに鶴を折っていました。 自発的に一つ折っては地元の患者さんに差し上げ、またひとつ折っては患者さんに差し上げ……いくつも折っては差し上げていました。すると言葉を荒立てていた地元の患者さんたちは鶴をもらうと笑顔に変わっていき喧嘩も静まりその場の空気が暖かくなっていったのです。 純粋な心が言葉を超えて人々を笑顔に変えるという不思議な力を目の当たりにしました。この体験は私にとって一生忘れられない衝撃的な出来事となりました。また、入院していたアスリートは無事競技に出場でき、最後にはチーム戦で優勝、全員金メダルという快挙!!この世界大会では、アスリートたちはいろいろな意味で成長したでしょうし、私もまたコーチとして成長し、貴重な経験をすることができました。

ゴルフ

会場：Glyfada Golf Course
参加国：26
参加人数：132
日本選手団参加人数：2

参加アスリート感想
小滝 一徳（SON･大阪）

ギリシャへ行ってきました。とても暑かったです。ゴルフ頑張りました。 金メダルをもらいました!たくさんの人達とゴルフができて嬉しかったです。これからもゴルフ頑張ります。

ゴルフ総括
境　忠利 ヘッドコーチ

日本での練習では、時々アスリート達の集中力が無くなりミスをすることが多く、世界大会という大きな舞台のプレッシャーの中で大丈夫かなと心配でした。

しかし、アテネでのアスリート達は、30度を超える暑い中、暑さやプレッシャーと戦い、日頃の練習の成果を存分に発揮することができました。アスリートたちは試合前後も積極的に練習に取り組み、心配していた集中力も切らすことなく自己ベストの記録を出し、素晴らしい成績を収めました。また、他国のアスリート達やボランティアの方々とゴルフを楽しんでいる表情を見て、本当にゴルフが好きなんだなと感じました。

今後、アスリートたちには世界大会の経験を活かし、練習を重ね、次のレベルへ挑戦していただきたいと思います。また、コーチもこの経験を活かしてアスリートのレベルアップに努力していきたいと思います。

大会を終えて

アスリート
竹内 和茂（SON・長野）

世界大会に選手として出ることは僕の夢でした。今回のアテネ大会でその夢が実現できました。メダルは取れなかったけど、自己新記録を更新できてそれだけで満足しました。

出場した種目は、走り幅跳び、100mリレー、100m走です。幅跳びでは、僕より高く飛べる選手がいたので、世界には上には上がいることを実感しました。

100m走はもう少し体がゴールラインに出ていればメダルに届いたのですが、自己ベストを更新できただけも良かったです。

合宿で学んだことが今回の大会で活かされたので、自己ベストが更新できたのだと思います。合宿で学んだこと、それは「あまり力を入れずに力を抜くことが大事」だということでした。4年後の大会ではメダルと取れるように頑張りたいです。

コーチ
宮脇 美峰（テニス）

今回の夏季世界大会では、アスリート達の頑張りや試合後の達成感にあふれた表情に、「これが世界大会なのか!」と、これまで経験したことのない大きな感動を得ると共に、アスリート達の素敵な笑顔に何度となく元気をもらいました。

また各国のコーチ達から、女子ダブルスでの接戦の中での粘り強いプレー、少ない練習時間だったとは思えないほど息の合った二人のコンビネーション、固唾を飲んでチームメイトのプレーを見守るアスリートの姿や待合室での仲のいい様子などを見て「君たちは最高のチームだ」と次々に言って下さり、アスリート達とこの言葉を喜び合いました。日頃の練習の成果を慣れない環境下でも発揮していたアスリート達。「がんばれ日本」今回の大会に込められた多くの方々の思いや私自身が体験したり感じたりしたことを地区に伝え、今後の活動を盛り上げていきたいと思います。世界大会に参加する機会をいただき本当にありがとうございました。

ファミリー
大里 宏城さん（陸上競技:大里美欧　父）

世界大会参加の意義、目的には記録、成績のみならず、長期間親元を離れて暮らし自立心を養うこと、日本選手団はもちろん、広く世界の人と交流することがあげられています。しかし、私は他人とコミュニケーションをとる事が苦手な娘には無理だと思い、娘の世界大会参加の意義・目的は記録達成のみと思っておりました。ところが、そんな私を驚かせた光景がありました。1,500m（陸上競技）表彰式の時に、2位の娘の横に立つ4位のアスリートがしきりに娘に話しかけ、ガッツポーズをとるように促してくれているのです。その時、娘はその子の顔をじっと覗き込んでいました。この行動は誰に対しても行うわけではなく、気になった人に対してのみにとる行動なのです。コーチのお話によると、そのアスリートは表彰式の前の控え室でも娘に親切にしてくれていたそうです。その後、娘は日本選手団の所に戻ってきましたが、そこでも嬉しい光景が! チームメイトが大喜びで娘を迎えてくれたのです。コミュニケーションをとる事が難しい娘にも大会を通じて国内外に友達が出来たのだと感激で目頭が熱くなりました。

国際学術会議参加・様々な競技視察～SO日本の活動の充実に向けて～

国際学術会議へ参加
藤田 紀昭 さん
（同志社大学スポーツ健康科学部 教授）

スペシャルオリンピックスの世界大会と並行して、世界各国から研究者と学生が集まる学術会議が初めて開催され、日本からは同志社大学スポーツ健康科学部教授・藤田紀昭先生が参加しました。

今回の世界大会に合わせて国際学術会議が6月25日から27日までの三日間、アテネ市内のクラウンプラザホテルで開催されました。会議では、スペシャルオリンピックスに関する調査・研究を実施する際にアスリートやファミリーとの関係はどうあるべきか、各国研究者が連携して調査を行う時などどのような配慮が必要なのか、ヤングアスリート（幼児のアスリート）のためのプログラムの実施例、効果などについての発表やディスカッションが行われました。参加者は各国で社会福祉、心理学、障害児教育、教育、医師、歯科医師、理学療法士、WHO関係者、スポーツ科学などのそれぞれの分野でスペシャルオリンピックスに関わっている人たちで、スペシャルオリンピックスが本当に幅広い分野の人たちによって支えられているということを改めて感じました。日本でも多くの研究者が連携して調査・研究を行い日々の活動に還元される必要があることを認識させられた 3日間でした。

日本選手団アドバイザー
村上 智則 さん
（SON理事）

今回の世界大会では、日本選手団サポートとともに、柔道などまだ日本で展開していない競技の視察を行いました。

短時間ではありましたが、いくつかの競技の視察をしましたので報告します。ひとつめは柔道です。公式競技としての開催は、今大会で 2度目となり、123名が参加しました。「一本」を目指し、積極的に技をかけあう姿が印象に残りました。試合が終われば、勝敗に関係なくお互いの肩を持ち、健闘を讃えあう姿には感動しました。エキシビションではありましたが、ビーチバレーボールも印象に残りました。今大会が初めての開催で、16チームが参加しました。1チームは、4名で、3名がアスリート、1名がパートナー（知的発達障害のない人）です。ユニファイドスポーツの新しい形としての試行でもありました。

真っ青な空の下、障害の有無など関係なく、ひとつのボールを一緒に追う姿に、すぐにでもコートに飛び込んで行きたいような気持を感じました。他にも、重複障害のある人を対象としたMATP、2歳から 7歳児を対象としたヤングアスリートプログラムなどスポーツの持つ様々な楽しさを身近で感じることができました。私は、支援学校の教員をしており、生徒たちに大会の様子を伝えました。「なんだか夢が持てたような気がしました」と、ある生徒の感想です。さらに「夢」やそれをかなえる「チャンス」を広げていきたいと強く思いました。

現地アテネで、アスリートに勇気を与えてくださった方々!

スペシャルオリンピックス日本 ドリームサポーター
2007年ミス ユニバース世界大会優勝
森　理世 さん

私は 2011年夏、スペシャルオリンピックス日本のドリームサポーターとして、そしてスペシャルオリンピックス世界大会のオールスターファンとして、アテネ世界大会の応援に参加させて頂くことができました。いつも日本国内でも様々な感動と経験をアスリート達や活動を支えるボランティアの方々と分かち合わせて頂いていましたが、今回の世界大会開催地のアテネに到着した瞬間に大きなカルチャーショックを受けました。地球上にはこんなにも多くのスペシャルオリンピックスファンがいる!!

ギリシャの歴史と現地アテネの方々の思い入れのあるスタジアムで開閉会式は行なわれました。その数、約 6万人をも収容できるスタジアムを埋め、アテネの街がスペシャルオリンピックス一色になり、行く先々でボランティアの方々から広まってゆくサポートしあう人間の姿。世界中から一つの場所に目標を掲げ集まり、国境や人種、文化を越え、それぞれのベストを尽くし同じ汗を流す。

自分自身が直接この目でみた光景は、愛と希望にあふれるあたたかい世界でした。

アスリート、そしてアスリートを支えるコーチや家族。また、それらを支えるボランティアやサポート企業が一つに。ただただ感動しました。自分の考えを持って自ら動き、授業の合間を使い精力的にサポートしているボランティアの学生など、若い力が光っていたことも印象的でした!

特に皆さんにご報告したいのは 130カ国を越える国が集結し競い合い、きれいごとだけではなくいつもとは違う環境下。その中でもチーム日本は大活躍!金メダルをはじめ、数多くのメダルを勝ち取り、世界レベルで勇敢に戦ったのです!
これは日本の誇りとも言えるでしょう!日本中が手を取り合って喜び合いたいものです。

まだ、グローバルという観点から見ると、海外に比べ日本にはもっとスペシャルオリンピックスに対しての熱いエナジーが必要です。

私達には、この日本には、世界に誇れるスペシャルオリンピックスニッポンがあることを是非多くの皆さんに知っていただきたいです!

卓球公式審判
田中 理恵子 さん

SO夏季世界大会・アテネでは、卓球公式審判員として田中理恵子さんにご協力いただき卓球競技の進行を円滑に進めていただきました。

ビリーブクルー
（SOアスリートによる撮影班）

ビリーブクルーはメディアとして世界大会に参加し、競技会や記者会見など様々なイベントに足を運び取材を行いました。なお、ビリーブクルーの記録映像は、NHK教育テレビ「福祉ネットワーク」にて放送されました。

大会期間中に行われた様々なイベント

ユニティ・スポーツ・イベント

今大会初めて、国際的に有名なスポーツ選手や著名人がアスリートとペアを組み競技を行うユニティ・スポーツ・イベントが行われました。

日本選手団からはテニスの平野井渉さんが初めてユニティスポーツを体験し、有森裕子団長は10キロのマラソンに参加しました。また、SONドリームサポーターで 2007年ミス ユニバース世界大会優勝の森理世さんが卓球とドラゴンボートに参加し、世界中のアスリートとスポーツを通じてインクルージョンのメッセージを世界へと発信しました。

写真:ユニティ・スポーツ・イベント

グローバル・ユースサミット

グローバル・ユースサミットは、スペシャルオリンピックスのアスリートと知的発達障害のないパートナーが参加し、障害に対する認識を深め、またスペシャルオリンピックス活動の拡大について話し合いました。なお、このプログラムには、SONドリームサポーターの森理世さんに参加いただき、アスリートと SO活動について熱く語り合いました。

写真:ユニティ・スポーツ・イベント

ヘルシー・アスリート®・プログラム

ヘルシー・アスリート®・プログラムは、アスリートがトレーニングや競技をする能力を高めること、そして生活の質を向上することを目指しています。

大会期間中の 6月 26日～ 7月4日に 6部門（筋力・柔軟性改善、視力、聴力、口腔、足、栄養・生活習慣）の健康チェックが行われました。

写真:ヘルシー・アスリート®・プログラム

- ホストタウンプログラム
- 国際法執行者トーチラン®
- スペシャルオリンピックス フェスティバル

「2011年スペシャルオリンピックス夏季世界大会・アテネ」スペシャルオリンピックス日本選手団　結団式

世界大会開催地アテネに出発する当日6月18日（土）に東京都内ソフトバンクグループ本社にて「2011年スペシャルオリンピックス夏季世界大会・アテネ　日本選手団結団式」を開催しました。75名の日本選手団が一同に会し、団長の有森裕子、代表アスリート、代表コーチが力強く決意表明し、アテネでの健闘を誓いました。

司会には堀尾正明さん、有働由美子さんがご協力くださり、厚生労働省 自立支援振興室長 矢田宏人様（当時）をはじめ、株式会社ウィルコム執行役員 法人事業本部 本部長　鈴木龍雄様、スペシャルオリンピックス日本ドリームサポーターで 2007年ミス ユニバース世界大会優勝の森理世様から選手団へ激励のメッセージをいただきました。

また、今大会はアテネにて開催されるため、2004年アテネオリンピックで活躍されたメダリストの柴田亜衣様、水鳥寿思様、森田智己様、上野由岐子様にもご参加いただき、トークセッションを行いました。トークセッションでは、アテネオリンピックのエピソードトークや日本選手団アスリートの質問にお答えくださるなど、出発前のアスリートにとって心強いものとなりました。

会場には支援企業の皆様、そして日頃よりスペシャルオリンピックスの活動を応援してくださっている皆様など総勢 150名以上の方々が出席し、日本選手団にエールを送ってくださいました。

結団式概要

名称……2011年スペシャルオリンピックス
　　夏季世界大会・アテネ　日本選手団結団式
日時……2011年6月18日（土）14:00 ～ 15:30
会場……ソフトバンクグループ本社　25階
出席者……認定NPO法人スペシャルオリンピックス日本
　　理事長 有森裕子（日本選手団団長）
日本選手団…75名
司会……堀尾正明 様
　　有働由美子 様
来賓……厚生労働省（前）自立支援振興室長　矢田宏人 様
　　株式会社ウィルコム 法人事業本部長　鈴木龍雄 様
　　SONドリームサポーター　森　理世 様
ゲスト……アテネオリンピック競泳 金メダリスト　柴田亜衣 様
　　アテネオリンピック競泳 銅メダリスト　森田智己 様
　　アテネオリンピック体操 男子団体総合 金メダリスト　水鳥寿思 様
　　アテネオリンピック女子ソフトボール 銅メダリスト　上野由岐子 様
共催……株式会社ウィルコム
協力……日本コカ・コーラ株式会社

壮行会

結団式終了後、株式会社Beyond Japanのご協力のもと、素晴らしい料理をご提供いただき、同会場にて日本選手団を激励する壮行会を行いました。壮行会では、日本選手団、登壇者、そしてご来場の皆様が最後の歓談を楽しみ、終始笑顔の絶えない時間となりました。激励を受けた日本選手団は多くの方々に見送られ、それぞれの決意を胸に大会が開催されるギリシャ共和国 アテネへと出発しました。

協力: 株式会社 Beyond Japan

在ギリシャ日本国大使館

大会期間中の6月30日、日本選手団は在ギリシャ日本国大使館にお招きいただき、多くの方々より激励を受けました。大会日程の半分を終え、厳しい環境の中、全力で競技に臨む日本選手団にとって、気分をリフレッシュする貴重な時間を過ごすことができました。久しぶりに口にする日本食に元気をもらい、翌日からの競技に取り組む鋭気を養いました。また、在ギリシャ日本国大使館のサポートにより大会期間中、日本選手団をはじめ、ファミリーや応援団などアテネに滞在した方々が安全に行動することができました。

初めて開催した「写真展・報告会」～世界大会 日本選手団アスリートの勇姿～

写真展～SO Athens 2011～

世界大会での日本選手団の勇姿の写真展を東京都庁南展望室にて1週間開催しました。東京の街を一望できる観光名所にスポーツフォトの第一人者、フォート・キシモトが撮影したアテネでのアスリートたちの写真 60点以上をプロのデザイナーが演出し、SO世界大会、そしてSO活動の魅力を伝えました。

写真展初日には日頃より SO活動にご支援いただいております高円宮妃殿下にご臨席を賜り、選手団の活躍をご観覧いただきました。

開催概要
日時……2011年8月22日（月）～8月28日（日）
　　9:30 ～17:30
会場……東京都庁第一庁舎南展望室
写真……フォート・キシモト
協力……富士ゼロックス株式会社
　　富士ゼロックス東京株式会社
　　株式会社マック
　　有限会社サポートプランニング

報告会

開催概要

日時……2011年8月22日（月）19:00～21:00
会場……株式会社テイクアンドギヴ・ニーズ青山迎賓館
出席者……日本選手団 団長　有森裕子
　　日本選手団アスリート 17名
　　SONドリームサポーター　森　理世 様
来賓……厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部
　　企画課 自立支援振興室長　君島淳二 様
　　株式会社テイクアンドギヴ・ニーズ
　　取締役社長　知識賢治 様
　　株式会社テイクアンドギヴ・ニーズ 人事部
　　障害者雇用責任者　宮崎家光 様
ゲスト……アテネオリンピック競泳 金メダル　柴田亜衣 様
　　アテネオリンピック競泳 銅メダル　森田智己 様
共催……株式会社テイクアンドギヴ・ニーズ
協力……日本コカ・コーラ株式会社
※報告会の様子はUSTREAMにてライブ配信いたしました。

8月22日（月）、株式会社テイクアンドギヴ・ニーズ 青山迎賓館にて、「2011年スペシャルオリンピックス夏季世界大会・アテネ 報告会」を開催しました。報告会では、日本選手団団長 有森裕子、日本選手団アスリート、そしてスペシャルオリンピックス国際本部 All Star Fanとして、現地でアスリートを応援された森理世様が、それぞれの世界大会・アテネでの活躍や経験を参加いただいた支援企業の方々など来場者約 130名の皆様に報告いたしました。また、大会ハイライト映像や日本選手団アスリートの勇姿の写真を投影し、参加者の皆様に大会の様子や日本選手団の活躍、そして感動を伝えることができました。

株式会社テイクアンドギヴ・ニーズ
人事部　障害者雇用責任者
宮崎 家光 様

宮崎様は、株式会社テイクアンドギヴ・ニーズで働いている日本選手団アスリート森田赳人さん（SON・東京）の応援に、現地アテネに入り世界大会を観戦しました。

障がいを持ちながらも日々の厳しい練習（訓練）により自己能力を可能な限り高めて、必死にゴールを目指す姿は、実に堂々としていて爽やかでした。このようなすばらしい姿に、思わず声を出し、手を叩きました。選手がゴールするたび、深い感動が襲ってきて身震いしました。私だけではなく、多くの人がスペシャルオリンピックス世界大会で同じ感動を感じたことと思います。

大会後、同じ職場でアスリートに寄り添うとき「何ができないか」ではなく「何ができるか」ということに視点を向けることが大切であることを教えられました。これを契機にスポーツや仕事を通じて更にお互いがより身近な存在になれるよう取り組もうと決心しました。

2011年スペシャルオリンピックス夏季世界大会・アテネ 期間中の広報活動

事務局スタッフが現地アテネから世界大会の模様をライブ配信

今回の世界大会での広報活動は、ヤフー特集ページとUSTREAM、twitterを活用し、世界大会の模様、日本選手団の様子をリアルタイムで配信いたしました。これらのツールにより、日本で応援している皆様にも SO世界大会を観ていただくことができる新しい広報活動を展開しました。

Yahoo! 特集ページ
展開期間:2011年6月15日（水）
　　～7月31日（日）
※47日間

Yahoo! 公式ブログ
更新回数:51回
※SON事務局スタッフが日本選手団の様子を現地から報告

USTREAM
配信数:79回
視聴者数:20,178回
※2011年8月19日時点
〈結団式〉総視聴者（PV）数:2501
〈報告会〉総視聴者（PV）数:6166
※現地アテネからリアルタイムで映像を配信

ニュース報道
NHK/サタデースポーツ
NHK/NHKニュース　おはよう日本

新聞掲載
44社、156件
※2011年8月19日時点

2011年スペシャルオリンピックス夏季世界大会・アテネ

日本選手団アスリートの勇姿

認定NPO法人スペシャルオリンピックス日本 Rainbow ニュースレターvol.25 2011年12月15日発行

「幸運とは準備が機会に出会うことである」

2011年スペシャルオリンピックス夏季世界大会・アテネ

Special Thanks

世界大会に出場するにあたり、様々な企業・団体・個人の皆様にご協力いただきました。

株式会社ユニクロ

開閉会式等で日本選手団が着用した式典用ユニフォームをご提供いただきました。

ヤフー株式会社

世界大会・アテネの情報や日本選手団の活動をお伝えする特集サイト「スペシャルオリンピックス特集 2011（開催期間：6/15～7/31）」を開設していただきました。

アディダスジャパン株式会社

日本選手団共通ユニフォームに加え、テニス、ゴルフなど 6競技の競技ユニフォームをご提供いただきました。

株式会社ウィルコム

大会期間中の選手団スタッフの現地連絡手段として海外用携帯電話をご提供いただきました。

株式会社アシックス

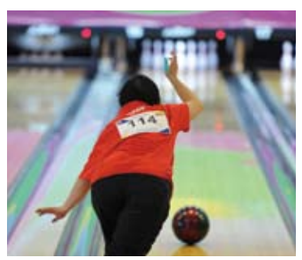
日本選手団陸上競技、バレーボールの2競技の競技ユニフォームをご提供いただきました。

JX日鉱日石エネルギー株式会社

1クリック 1円が日本選手団派遣活動に寄付される「クリック募金」を展開していただきました。

Ebonite International, Inc.
レジェンドスター株式会社

日本選手団ボウリングアスリートにボウリングボールとキャリーバックをご提供いただきました。



田辺三菱製薬株式会社
田辺三菱製薬労働組合
小野薬品労働組合

日本選手団全 9競技に医薬品セットをご提供いただきました。

2011年日本選手団選考から世界大会報告会までの流れ

2010年 11月5日～7日	2010年第5回スペシャルオリンピックス夏季ナショナルゲーム・大阪	5月28日～29日	競技別合宿実施（東京、熊本） ゴルフ、バレーボール、水泳競技、陸上競技
11月27日	2011スペシャルオリンピックス夏季世界大会・アテネ SO日本選手団選考委員会開催	6月18日	選手団結団式⇒日本出発
		6月20日～24日	ホストタウンプログラム
2011年 1月15日～16日	コーチミーティング実施	6月25日 ～7月4日	2011年スペシャルオリンピックス夏季世界大会・アテネ 開会式・各競技・各種プログラム・閉会式
1月22日～23日	選手団オリエンテーション実施	7月6日	帰国
4月29日～5月1日	選手団合宿実施	8月22日	報告会開催
5月21日～22日	競技別合宿実施（東京、広島） バドミントン、卓球、ボウリング、体操競技、テニス	8月22日～28日	写真展開催

認定NPO法人スペシャルオリンピックス日本

寄付・協賛・支援企業団体一覧

■ナショナルパートナー

日本アムウェイ合同会社、（株）ユニクロ、ヤフー（株）、ソニー生命保険（株）、アディダス ジャパン（株）、（株）ウィルコム、富士ゼロックス（株）

■ウェブサイトパートナー

サイエントグループ

■プレミアスポンサー

日本ケンタッキー・フライド・チキン（株）、銀座ステファニー化粧品（株）、日本GE株式会社 GEキャピタル、日本コカ・コーラ（株）

■マーケティングパートナー

（株）インヴェル・ジャパン

■フレンドシップスポンサー

（社）日本フードサービス協会、（株）NTTドコモ、東京海上日動火災保険（株）、（株）三菱東京UFJ銀行、三菱UFJ信託銀行（株）、
明治安田生命保険相互会社、九州電力（株）、（株）セイブシステムリンク、（株）スリーボンド、（株）三井住友銀行、三井不動産（株）、三井物産（株）、
日本生命保険相互会社、リシュモンジャパン（株）、SCSK（株）、医薬品産業労働組合連盟、ドイツ銀行グループ、ニホンモニター（株）

■マーケティング支援企業

ファミマクレジット（株）、（株）オニザキコーポレーション

■助成金

スペシャルオリンピックス冬季世界大会長野記念資金、スペシャルオリンピックス国際本部、（財）東京メソニック協会、
（独法）日本スポーツ振興センター スポーツ振興くじ助成、（財）森村豊明会、（財）中内力コンベンション振興財団

■寄付・協賛

ユニクロUTXスペシャルオリンピックス チャリティプロジェクト、JR東労組、JX日鉱日石エネルギー（株）、ICAP東短証券（株）、リシュモン F&A ジャパン（株）、東京都遊技業協同組合、（株）アップフロントエージェンシー、パナソニック（株）、
（株）安藤忠雄建築研究所、（株）CHINTAI、グラクソ・スミスクライン（株）、日本オーチス・エレベータ（株）、MDRT日本会事務所、富士ゼロックス チャリティーゴルフ大会、（株）セプン&アイ・ホールディングス、（社）日本ボウリング場協会、（株）マッシー、
三菱商事（株）、AGCセラミックス（株）、トヨタ輸送（株）、（株）ライフ、ピーアークホールディングス（株）、（株）ジェーシービー（ポイントチャリティー）、（株）プリデストン、共同カイテック（株）、三和グループ社会貢献倶楽部、ヤンセンファーマ（株）、
（社）あゆみの箱、大同生命社会貢献の会、（社）生命保険ファイナンシャルアドバイザー協会、（株）青山サロン、（株）ギフトグッズ、WCSグループ、新井ヴィスンサエティ・チャリティーコンサート、JR岐阜駅周辺施設連携促進協議会、明治神宮崇敬会、
エームサービス（株）、京セラ（株）、JAIFA東京住友分会、東京ロータリークラブ、UIゼンセン同盟、（株）アップフロントワークス、一般社団法人EOジャパン事務局、日本聖公会九州地区婦人会、（株）エクシオジャパン、（株）ファーストコレクション、
プラザーズ（株）、ミキグループフレッシュナゴヤ、（株）リバース、（株）市場価値測定研究所、日本アムウェイ合同会社内あぶあぶの容跡を上映する会、郷野・渡辺・山浦・還暦を祝う会、品川女子学院、（株）JTB首都圏新橋支店、グンゼラブアース倶楽部、
（株）三菱東京UFJ銀行社会貢献基金、（株）精養軒、神奈川大学人間科学部人科祭実行委員会、大安興業（株）、MDRT日本生命分会、（株）フォーシーズ、MDRT日本会 MDRT Foundation・Japan、鹿児島県立串木野養護学校職員有志一同、
One by One こども基金、（株）スポーツニッポン新聞社、KDDI（株）+αプロジェクト、東京海上フィルハーモニックオーケストラ会場募金、トライアスロンボーイズ有志一同、ライオンズクラブ国際協会第3回335複合地区女性会員、ロート製薬 カルガモ基金、
聖隷クリストファー大学大学院修士課程2009年度卒業生一同、（特活）チャリティ・プラットフォーム、（財）ジャスト・ギビング・ジャパン、大阪南ロータリークラブ、St.Andrews Society、学習院同窓会 桜友会、東京ウイメンズクラブ、東京ビジネスネットワーク、
東京海上フィルハーモニックオーケストラ部、（株）ソニックジャパン、エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ（株）、スペシャルオリンピックス支援コンサート実行委員会、日本オラクル（株）有志の会、（特活）千楽 chi-raku、大和ハウス工業（株）、
国際ロータリー第2750地区インターアクト年次大会実行委員会、国際ロータリー第2750地区インターアクト年次大会会場募金、東京タワーSO応援ブース会場募金、（株）セイブシステムリンク主催チャリティオークション、
軽井沢チャリティー・コンサート実行委員会、サイバーソリューションズ（株）、大阪プラムライオンズクラブ、（株）小林事務所、（株）トーエル、日韓交流おまつりチャリティ募金、国際ソロプチミスト大阪-東、JAIFAオールソニー会、東京西ウイズメンズクラブ、
八王子東京パイロットクラブ、UBS証券会社、UBS銀行チャリティゴルフ、シチズンホールディングス（株）、（有）難波アソシエイツ、川崎市立養護学校PTA、社会福祉法人つくばね会おおばん、日本聖公会 九州教区女性の会、En女医会、
富士ゼロックス埼玉端数倶楽部、富士ゼロックス埼玉（株）、イービーエスディーリングリソーシスジャパン（株）、ソフトバンクモバイル（株）、（株）S.D.B.B.、（株）キャンディッド・コミュニケーションズ、東急スポーツオアシス江坂店カッパーズ、
東急スポーツオアシス住吉店クラブ酔水、ディー・エイチ・エル・ジャパン（株）

■SOメイト

アシックス労働組合、オール・デサント労働組合、（株）損保ジャパン企業保険サービス、（株）キャリアビューロー、国際情報企画サービス（株）、トランスコスモス（株）、（株）ワークスアプリケーションズ、三井婦子、ヨネックス（株）、（株）ダンロップスポーツ、
キャロウェイゴルフ（株）、ナイキゴルフ（株）ナイキジャパン、アメアスポーツジャパン（株）、（株）スワロースキー、アクシネットジャパンインク、テーラーメイドゴルフ（株）、（株）スワニー、ユニックスコーポレーション（株）、プリデストンスポーツ（株）、ファイテン（株）、
ベンゼネラル（株）、アキレス東北販売（株）、ザ・バートン・コーポレーション（株）、山本光学（株）、（株）K2ジャパン、（株）コロンビアスポーツウェアジャパン、富士ゼロックス福島（株）端数倶楽部、（株）ゴールドウイン、三日月総業（株）、神奈川県ボウリング場協会、
大安興業（株）、セイコーエプソン（株）、キッセイ薬品工業、富士ゼロックス長野（株）、（株）ティアマリア、JA長野県グループ、信州ふるさと便事業部、長野大学、ホクト（株）、丸美屋食品工業（株）、（株）サーキットデザイン、国際ソロプチミスト佐久、
（株）南都銀行、（株）松本コンサルタント、大同生命社会貢献の会、ヒューマンボランティア協会、徳島県生命保険協会 徳島県に働く生保の仲間、医療法人 川島会

■協力

（株）イデアクレント、（株）オズマピーアール、（株）KP、（株）ジャパン通信社、（株）ディレクターズシステム、（株）フューチャーゲート、（株）ライノマティクス、宍道昇、竹中俊彦、志萱晃一、橋本慎太郎、柳田佐保里、中川健一、加藤アラタ、岩瀬裕之、北隼一、
魚本勝之、漆原悠一、（株）アーツ、永尾ちえ、TAKEZO、山下泰裕、王貞治、原辰徳、松浦亜弥、森理世、萩原美樹子、宮部行範、三浦泰年、亀谷望、濱島未来、堀尾正明、森島寛晃、小林研一郎、加藤良三、為末大、中田英寿、井上康生、国枝慎吾、
宇津木妙子、小谷実可子、杉山愛、喜多ゆかり、荒川静香、SHIHO、中野貴、有働由美子、上野由岐子、柴田亜衣、水島寿恩、森田智己、久保田智子、（財）日本体育協会、日本スポーツマンクラブ、メディアセンス（株）、（株）ジェイブレイン、デルタ航空、
（株）RIGHTS.、I&OTHERS、クーバー・コーチング・ジャパン、（株）フォート・キシモト、富士ゼロックス東京（株）、セイコーエプソン（株）松本事業所、第一貿物（株）、（株）セールスフォース・ドットコム、エフピコ物流（株）、（株）富士通東北システムズ
（有）サポートプランニング、日本電波塔（株）、通天閣観光（株）、三越銀座店、（株）スデティ スタディ、Sun Design Group、クロエ青山店、（株）WILD FLOWER TOKYO、マッキンゼー・アンド・カンパニー・インク・ジャパン、（株）マック、（株）伊東屋、
セイコーホールディングス（株）、セイコークロック（株）、（株）ワンウェイ、（株）テイクアンドギヴ・ニーズ

■個人寄付

一家明成、坂本精志、村上雅則、細川佳代子、三井婦子、新宅正明、中井梅雄、津川清、庄恵美子、須田道雄、宮崎恭一、横浜信一、篠原浩一郎、川上優子、小玉敏子、岡田浩子、塚田こうじ、米澤喜美子、小山内清孝、竹内清文、宮寺、
三浦勝、斉藤龍二、斉藤猛雄、師岡文男、酒井椎左、中根健治、近藤和子、佐野貴昭、鈴木千代子、沖かな子、宇津木妙子、土井紫生、小林廣久、平井暁子、福田光伸、中村哲也、玉城裕士、小西淑人、加藤幸太郎、岡本元美、岩崎眞揖、
立本宗一、藤井浩一、大河原毅、大河原愛子、チャールズナッシュ、高石好志、渡部知子、伊藤恭二、陣野壮太郎、海野達也、宮直史、西出陽子、山中真佐子、松山幸子、益田直美、福元卓之、ロイファウチ、諏訪俊二、南正美、加藤武文、
宮北幸代、萱間隆夫、田所健作、藤田治、宮内利廣、緊急エール募金ご協力の皆様

2011年8月31日現在順不同 敬称略

2012年第5回スペシャルオリンピックス日本
冬季ナショナルゲーム・福島

Special Olympics Nippon
National Winter Games
FUKUSHIMA 2012

8月27日に採火式・分火式を終え、いよいよ冬季ナショナルゲーム・福島の開催が迫ってまいりました。本大会は2013年スペシャルオリンピックス冬季世界大会・ピョンチャン（平昌）の選考会も兼ねて開催されます。全国のアスリートが福島に集い、そこで見せるアスリートの勇姿が復興へのエネルギーにもなりますよう、皆様の応援よろしくお願いします!

「心強く、心豊かに、心ひとつに、心うつくしまふくしま」

日程	参加予定
2012年2月10日（金）～2月12日（日） 2月10日（金） 開会式 2月11日（土） 競技 2月12日（日） 競技・閉会式	選手団…… 約950名 ――アスリート…… 約600名 ――団長・副団長・コーチ …… 約350名 大会役員・スタッフ・ボランティア…… 約3,000名

競技	会場
開会式	猪苗代町総合体育館（カメリーナ）
アルペンスキー	沼尻スキー場
スノーボード	
クロスカントリスキー	
スノーシューイング	
スピードスケート	磐梯熱海アイスアリーナ
フィギュアスケート	
フロアホッケー	猪苗代町総合体育館（カメリーナ）
閉会式	

ボランティア・ご寄付でのご協力方法は大会ホームページからご覧ください
http://son-fukushima.jp/song2012

World Winter Games
PyeongChang 2013

2013年スペシャルオリンピックス冬季世界大会は
韓国江原道・ピョンチャン（平昌）にて開催されます!

開催地:韓国江原道・ピョンチャン（平昌）／開催日程:2013年1月26日～2月6日
参加国:105カ国（予定）／参加アスリート数:2,500人（予定）

「緊急エール募金」のご協力ありがとうございました。
引き続き、冬季ナショナルゲーム・福島の開催支援のため、
「エール募金」にご協力お願いします!

エール募金

東日本大震災で被害を受けた地区のSO関係者への直接的な支援のために始めました「緊急エール募金」は10月末日をもちまして終了いたしました。ご協力くださった皆様に心より感謝申しあげます。いただいた緊急エール募金は、被災地区のスポーツプログラムの復興に向けての支援に活用させていただきます。
緊急エール募金終了後、通常の「エール募金」を再開します。
全国のSOアスリートに皆様のエールをお願いします。

全国のSOアスリートにエールをお願いします!

オンライン
http://www.son.or.jp/bokin

郵便振替 【講座番号】 00160-0-358242
【加入社名】 NPO法人スペシャルオリンピックス日本

スペシャルオリンピックスの使命
スペシャルオリンピックスの使命は、知的発達障害のある人たちに年間を通じて、オリンピック競技種目に準じたさまざまなスポーツトレーニングと競技の場を提供し、参加したアスリートが健康を増進し、勇気をふるい、喜びを感じ、家族や他のアスリートそして地域の人々と、才能や技能そして友情を分かち合う機会を継続的に提供することです。

SO日本ビジョン
スペシャルオリンピックスは質の高いスポーツトレーニングと競技会を通じて、知的発達障害のある人たちと触れ合うすべての人々が感動を共有し、各地区に根付いた全国的な運動となることを目指します。

SOオリジナルシューレース
～シューレースでつながろう!～
SOロゴの入ったシューレース（靴ひも）を着けてSOの輪を広げよう!
http://www.songoods.com

スペシャルオリンピックス日本 企画・マーケチーム奮闘ブログ
ここでしか見れない活動の裏側をご紹介します!
http://blogs.yahoo.co.jp/yjch_sonippon

ツイッター @so_nippon
SO日本事務局スタッフがタイムリーなSO情報をつぶやいています。ぜひフォローしてください!

twitter

スペシャルオリンピックス日本 公式ホームページ
最新情報を更新しています!
「Rainbow」バックナンバーもご覧いただけます!

認定NPO法人スペシャルオリンピックス日本 ニュースレター「Rainbow」vol.25 企画:SO日本事務局 デザイン:若田友康 編集:トライ・アングル企画 印刷:(株)文栄社